

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成28年9月14日(水)

児童 6年2組 男16名 女5名 計21名

授業者 佐々木 慎一

- 1 単元名 資料を効果的に活用し、意図を明確に伝えよう
教材名 「町の未来をえがこう」(東京書籍6年)

2 身に付けさせたい力と言語活動の構想

<既習>

- ・伝えたい内容や目的に合わせ、形式を工夫して、資料を作成する。
- ・説明する内容と資料を関連付け、見せ方を工夫して話す。

<児童の実態>

- ・資料を活用して説明することはできるようになってきた。
- ・事例を使って詳しく説明することはあまりできない。
- ・一方的な説明になりがちで、相手の反応を確かめながら説明することは不十分である。
- ・組み立てを考えて説明することができず、考えをうまく伝えられないことがある。

<身に付けさせたい力>

- ◎意図が伝わるように適切な事例や資料を挙げ、話の構成、聞き手の興味を引き付けるための話し方や資料の見せ方を工夫して話す。(話すこと・聞くこと イ)
- ・目的に合わせて、収集した知識や情報を関係付けて整理する。
(話すこと・聞くこと ア)

<言語活動>

- ・相手に意図が伝わるように資料を工夫して提示し、プレゼンテーションを行うこと。
(言語活動例 ア)

<単元のゴールの姿>

「10年後の遠野」についてプレゼンテーションを行う。

- 聞き手の興味を引き付ける。

<話し方>

「～は知っていますね。」「～した人はいますか。」「～と思いますか。」

【聞き手の反応を確かめる】

<資料の見せ方>

「～を見てください。」「その結果をまとめたのが、この表です。」「～を提案します。」

【見せるタイミング・間】

- 意図が伝わるような話の構成で発表する。

【構成を考えた発表の手順】

- ・始めの言葉・・・発表の進め方

「・・・について発表します。(資料①を示しながら)発表は、このような順に進めます。」

- ・参考にしたい事例①
- ・参考にしたい事例②
- ・現状の問題等(アンケート・インタビュー等)
- ・グループの提案

3 単元の見目標

- ・自分たちの町の10年後に関心をもち、教材文や本、資料を読んで調べ、その内容を活用して自分たちの考えを相手に伝えようとしている。
(関心・意欲・態度)
 - ・目的に合わせて、収集した知識や情報を関係付けて整理することができる。
(話すこと・聞くこと ア)
- ◎意図が伝わるように適切な事例や資料を挙げ、話の構成、聞き手の興味を引き付けるための話し方や資料の見せ方を工夫して話すことができる。
(話すこと・聞くこと イ)
- ・目的に応じた文章の構成について理解できる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(キ))

4 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの町の10年後に関心をもち、教材文や本、資料をもとに調べ、聞き手を意識してその内容を活用して自分たちの考えを相手に伝えようとしている。 観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した知識や情報を関係付け、整理している。 ア 観察・ワークシート ・聞き手に意図が伝わるように、話の構成や話し方、資料の見せ方を工夫して話している。 イ 発表・観察・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた文章の構成について理解している。 イ(キ) ワークシート

5 単元の指導計画 (11時間)

次時	主な学習活動	見通しと言語活動の手立て	評価規準	
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・10年後の遠野についてプレゼンテーションをすることを確認し、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠野市長の「遠野スタイル」によるまちづくりの話をつきかけにし、自分たちなりの提案をプレゼンテーションする見通しをもたせる。 【見通し】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの町の10年後に関心をもち、プレゼンテーションをするという学習課題を確かめ、進んで学習に取り組もうとしている。 (発言・行動観察)
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションについて知り、10年後の遠野についてイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる映像を見ることでプレゼンテーションについて理解させる。 【見通し】 ・マッピングをしながら現在の遠野や10年後の遠野についてイメージを広げ、交流させる。 【言語活動】 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの特徴を理解している。 (発言・観察)
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの構成について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の発表例をもとにプレゼンテーションの構成を考えさせる。 【見通し】 ・構成についての気づきを交流させる。 【言語活動】 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの構成とその良さについて気付いている。 (観察・ワークシート)
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文から資料の活用の仕方や筆者の主張を考え、どのような遠野を目指すのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「資料」「事例」そのものを伝えることが目的ではなく、意図を伝えるための「資料」「事例」であることを理解させる。また、資料と言葉とのつながりや活用の工夫についておさえる。 【見通し】 ・アンケートやインタビュー、伝わりづらい言葉を補うものも資料となり得ることを理解させる。 【見通し】 ・資料の意図や効果について話し合わせる。 【言語活動】 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて本や資料などから複数の情報を集め、関係付けて活用している。 (ワークシート)

	5 ・ 6	・情報を収集する。	・自分たちの目指す遠野のイメージを拠り所として情報収集をさせる。【見通し】 ・教材文も一つの情報と考え、他にも本、インターネット等複数の情報について、目的を意識しながら収集させる。【言語活動】	
	7	・プレゼンテーションの構成を考え、情報の取捨選択を行い、必要な資料を作る。	・目的に沿って、構成を考えたり情報の取捨選択したりさせる。【見通し】 ・意図と関係付けながら必要な情報を取捨選択し、資料を作成させる。【言語活動】	話・聞 ア ・調べて分かったことや考えたことを関係付け、発表の内容や必要な資料を考えている。 (ワークシート)
	8	・より聞き手を意識したプレゼンテーションにするための方法を考える。	・第2時のモデル映像と本時のモデル映像を比較し、よりよいプレゼンテーションのイメージをもたせる。【見通し】 ・聞き手をより意識したプレゼンテーションになるための視点を交流させる。【言語活動】	話・聞 イ ・映像の比較をもとに、聞き手に意図が伝わる工夫を考えている。 (観察・ワークシート)
	9	・プレゼンテーションをモニタリングし合い、視点に沿って発表会へ向け、準備をする。	・前時の気付きをもとにプレゼンテーションのための視点を確認する。【見通し】 ・発表会本番をイメージし、互いに視点を意識してプレゼンテーションし合う。【言語活動】	話・聞 イ ・自分たちが気付いた視点に沿った、資料の見せ方、話し方をしている。 (発表・観察・ワークシート)
第三 次 (本 時)	10	・プレゼンテーションによる発表会を行い、意見交換をする。	・前時の学習を生かした発表になるように意識させる。【見通し】 ・聞き手を意識させて、プレゼンテーションを行う。【言語活動】	話・聞 イ ・聞き手に意図が伝わるような、資料の見せ方、話し方をしている (発表・観察・ワークシート)
	11	・学習の振り返りをする。	・互いのプレゼンテーションのよさを交流し合いながら、〈身に付けさせたい力〉について振り返りをさせる。【言語活動】	

6 本時の学習（10時間／11時間）

(1) 目標

意図が伝わるように、聞き手を意識してプレゼンテーションを行うことができる。

(2) 展開

段階	活動内容	○手立て ・留意点 ◇評価規準	備考
導入 2分	1 本時の課題を確かめる。 自分たちがえがいた「10年後の遠野」について、最高のプレゼンテーションをしよう 2 「最高のプレゼンテーション」になるためにどうすればよいか確認する。	○前時の学習を生かした発表になるように意識させる。【見通し】 ----- プレゼンテーションのための視点 ・反応を見ながら話す。 ・聞きやすい速さ、間で話す。 ・資料の提示の仕方を工夫する。 -----	・掲示物 ・ワークシート 中学校区視点1
展開 40分	3 プレゼンテーションを行う。	○聞き手を意識させて、プレゼンテーションを行う。【言語活動】 ・遠野市まちづくり再生担当の方を招いて、プレゼンテーションへの意欲を高める。 ◇聞き手に意図が伝わるように、話の構成や資料の見せ方を工夫して話している。【話・聞 イエ】 (発表, 観察, ワークシート) ・モニタリングでペアだったグループの発表は前時の助言が生きているか, ペアではなかったグループの発表は視点に沿った発表になっているかを意識させて聞かせるようにする。 ・まちづくり再生担当の方より、思いの伝わり方について一言いただき, 単元の振り返りに生かす。	・プロジェクター ・PC ・スクリーン 中学校区視点2 ・ワークシート
終末 3分	4 学習のまとめをする。 5 学習の振り返りをする。 ○○グループのプレゼンテーションは、問いを投げかけて僕たちの反応を確かめながら行っていたので、最高のプレゼンテーションになったと思います。ぼくも相手を意識した発表をしていきたいです。 6 次時の学習内容を確認する。	・自己評価をもとに視点に沿って総括し、今後に生かすように促す。 ・単元初めに確認し合った「身に付けた力」に戻り、次時の振り返りの予告をする。	・振り返りシート

*遠野中学校区授業改善の視点にかかわって

視点1 (課題意識の持続のために)

- ・前時を想起し、本時のプレゼンテーションをするときや聞くときの視点を明確にし、活動の見通しをもたせる。

視点2 (達成状況の把握のために)

- ・視点を意識させたプレゼンテーションや、視点を明確にしたワークシートの記入から達成状況を見取る。

(3) 板書計画

課題

自分たちがえがいた「十年後の遠野」について、最高のプレゼンテーションをしよう。

「プレゼンテーションのための視点」

- ・ 反応を見ながら話す。
↓うなずき、納得：
- ・ 聞きやすい速度、間で話す。
↓強調、大切な言葉
- ・ 資料の提示の仕方を工夫する。
↓聞き手を引きつける

まちづくり再生担当の方から



振り返り

スクリーン